

もしもに備えて

～大田自治会との合同夜間消防訓練～

昨今、日本各地で想定外と言われる災害が多発しています。白川町でも昨年の豪雨による飛騨川の増水は記憶に新しいのではないのでしょうか。

ではそういった災害の時、入居されている方に対して私たちは何ができるのでしょうか。

毎年2回行われる消防訓練のうち、秋に行われる夜間を想定した消防訓練が、近隣住民の方々のご協力を得て9月21日にサンシャイン美濃白川とかわばた荘合同で行われました。

サイレンの後、地域の方が施設内に入り、職員と協力して入居者を避難させたり、消火器や消火栓で消火活動をしたりします。これは普段近所にあっても立ち入る機会がなかなかない施設で、もしもの事態が起こった場合、地域の方と職員とが協力して入居者の救出を円滑に進めることができるようにとの訓練でもあります。

今回は消防避難訓練でしたが、災害はいつ、どんな形で起こるかわかりません。実際、昨年の河川の増水は想定しておらず、急遽の判断であいらんどとかわばた荘の入居者の避難が始まりました。そのため水害に対する訓練も必要なのではないかとの意見があがり

ました。

もしもの時、お互いが慌てず助け合える関係であるために、普段からこういった訓練がいかに大切か考えさせられる良い機会となりました。

今後も地域の方と連携を図りながら入居者の安全を確保していきたいと考えています。



▲2018年7月8日 見たことのない飛騨川の水位でした

サンシャイン

周辺探訪

坂ノ東「村君」

「村君」は、坂ノ東のいちばん北に位置し、世帯数は20軒弱。下呂市金山町に接する飛騨川に面したコンパクトな集落です。

昭和4年、飛騨川に「坂東橋」が架かるまで、対岸の「油井」へは「吊り越し」で渡っていました。そしていまの国道41号線と同様、古くから飛騨へと続く街道が集落を通っていました。その街道沿いに、小さな薬師堂と観音堂が建っています。

薬師堂には「腹痛によく効く」との言い伝えがあります。薬師堂の外にある「南無阿弥陀仏」の碑の前には、真ん中がくぼんだ小さな河原石が幾つも供えてありまし



▲供えられている「へそ」の河原石



▲観世音菩薩像

た。くぼみは「へそ」を表しており、石を彫って供える参拝者もあったようです。

また、観音堂には観世音菩薩像（2体）の他、庚申と上流から流れてきたという仏像が祀られています。昔はここで夕暮れを迎えた旅人が泊まって行くこともあったようです。

薬師堂や観音堂には江戸時代の寄進札板が掲げられています。坂ノ東の各村（集落）や油井村の他、天領であった飛騨の村からの寄進名を見ることができます。

村君という地名の由来ははっきりしませんが、ここに有力な長（おさ）がいたのかもしれない。